

I 被災者の生活の回復に関する実感

生活の回復度及び3ヶ月間の進捗状況についての回答区分により、自由記載欄の記載内容を取りまとめると以下のとおりであった。

区分	職業・所属等	年齢別	地域	自由記載（理由）
回復した	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸北部	転居された方もいますが、周辺は震災前とほぼ同じような生活を取り戻しているように見えます。集団移転する方も場所が決まったと聞きました。周辺の道路整備等も着々と進んでいます。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	生活用品は十分にある。買い物等は不自由しない状態。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸北部	そもそも民家の被災がなかったから食事、寝泊りには全然困らない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	漁業関係の施設、設備がほぼ復活し、漁も行われている。水産加工関係の工場も元通り稼働している。学校徴収金の滞納もない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	コールセンターが開設され、多くの雇用が生まれたと思う。震災前とほぼ同じ生活レベルになっていると感じている。
やや回復した	地域団体・郵便局関連	10歳代	沿岸南部	被災前の生活水準にはまだまだ程遠いと感じますが、精神的な余裕はある程度出てきているように思います。震災直後は近くに店ができたばかりでありがたいと言っていたのが、最近は品揃えが少ない等の声が聞こえるようになった。浸水地域に住んでいた被災者の中には、行政によるかさ上げ工事を待たずに元の場所に家を建てて生活を再開している方々や仮設ではなく本設で営業を再開しているお店等もあり、今後は工事計画に支障はないのだろうかといらぬ心配をしています。
	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	家とかは建ってきたが、まだ雇用はあまりないかなと思いました。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	自宅を新築したり、改築したりする被災者が出てきている。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	漁業中心の場所だが、漁師達は漁に出ることが徐々にできている。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	3ヶ月前に回答した頃から全く変わっていないように感じる。がれきなどを集めた場所で作業している方はいるが、がれきが減っているようには思えない。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	普段の周りの生活の様子を見ていると生活自体に困っている方がいないわけではないが、余裕を感じる人が全体的に割合が高いと思います。特に生活自体とは関係があまりないかもしれませんが、家を建てる人が多くなったと強く感じます。これも見通しがつき、生活に余裕が出ているからなのかもしれません。反面、思った支援が被災後に受けられず困っている方もまた存在します。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	復興計画が具体化してきて、家を建てて仮設を出られる方が今年中に何世帯かいらっしゃるようなので被災前に生活も少しずつではありますが戻りつつあると思います。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	徐々に住宅建設をして自宅へ住める方が増えてきたことは良い傾向だと思いますが、家族状況や就業の状況により新しく建築できない方との格差が生まれてきているようにも感じます。

やや回復した	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	生活をする面では、大型仮設店舗の増加により以前は隣町又は内陸に行っていたものが地元で買えるようになり楽になったと思う。仮設住宅内も自分から行動を起こすようになり地域の和が取れるようになった。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	ここ3ヵ月はあまり進み具合を感じていません。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	地域の夏祭りも行われ、生活は回復に向かっていると思うが、一部の地区については、まだまだではないかと感じる。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	被災した商店等は仮設店舗で営業再開している。水産加工場等が仮設工場の建設により営業を開始しており、経済の動向が見えてきた感じがしています。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	派遣会社等がパソコン等のスキルを身につけながら就職までを賃金を払いながら行う事業を行っており、この事業が人気があり、多くの方が現在就職を目指し講座を受けています。派遣会社も補助金を受けての事業ということですが、「パソコンの操作もままならないので就職できない」という方は多く、この事業は有効なものと感じています。求人にも多い「土木作業」の職業訓練もハローワークで用意していることも有効と感じています。このような事業、就職訓練のおかげで「求人の条件に自分のスキルが合わない」という方が少し前進できていると思います。住環境については、盛岡方面で移り住む方、戸建住宅を建てる方が多くなってきたと感じます。仮設団地の中では、新たに家を建てられる方等、出られる方、出られなくてまだ仮設暮らしを続けるしかないという方の気持ちの温度差を感じます。仮設に残る方々は「この生活がいつまで続くのか」と目途を立てたいという気持ちが強いようです。復興公営住宅の建設予定も立ちましたが、具体的に工事が進む等、動きを早く見せてほしいと思います。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	求人数がとても多いように感じる。働く場がなくて困っているという話は聞いたことがないが、働いてくれる人を探しているけどいないという声は聞く。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	3ヶ月前に比べると仕事が見つかって働いている方が少なくなったと思いますし、又自営業の方は少しずつ復興の兆しが見えてきているように感じられます。又、家を新築された方が随分多くなったと思います。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	被災した自宅を修理したり、自宅を新築したりして、仮設住宅より出て行く方が出始めています。生協の移動販売が6月より始まり、車もない方でも食料品等の買物に不自由しなくなりました。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	仮設住民の中でも家をリフォーム又は新築したり新築中の人が5～6人出てきて現に仮設より転居していった人も2～3人出てきた。具体的な住民と先が見えない住民が少しずつ色分けされてきた感じがする。 ※被災土地の買い上げが早く具体化し現実化されれば良いとほとんどの人が感じている。これがないと次の一步につながらない。 ※残っている人は市営住宅街の人達であり、これまた具体的に早期着工が望まれる。
地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	平日仮設にいる方が少なくなっているように感じます。稼働年齢層の方々です（男性）。	

やや回復した	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	1年も経ち、気持ちは先に進みたいという思いである事、又高台の件はまだまだと再建築を立てる事を思い、高齢と今後の資金のことを思います。私達は50年以上前から災害時のため植林をしてきました。今回の災害で県産材として利用していただけたらと思います。今後、T P Pの時には外林に負け、山に捨てることになると思います。三陸道もここを通せたらと思いました。住民の資金源の一部にしたらと思いました。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	この仮設から独立して一人また一人と出て行っています。でも、土地が高く盛岡に引っ越していきました。土地の値上がりを止めてほしいです。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸北部	船がほとんど揃ってきている。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸北部	被害が少ない場所でしたので、再建は他の被害が多かった市町村とは比べ物にならないくらい良くなっていると思う。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	仮設住宅や仮設店舗への入居等により、一部ではあるが事業再開している。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	創業する漁船が増えた。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	回復というか、安定してきていると思います。雇用も増えてきているようですし、徐々に良くなっていくのではと考えます。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	家を新築する人はまだまだ少ないが、家を建てるための土地を確保する人が増えてきた。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	個人的にはかなり復興しておりますが、全体を見ますと進んでいないように思われますが、以前に比べると会社企業も増え働きに出る人もかなり出てきているように思われます。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	被害が比較的軽微な地区は家屋の修復等も概ね完了し、震災前と変わらぬ生活に戻っている。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	住環境 住宅着工数は次第に増加してきているが、仮設住宅入居者数に比べるとまだまだ本格化とは言えないレベル。災害公営住宅もやっと一部が着工されたが絶対戸数は少ない。土地取引の活発化により、一部地域で地価の高騰が見られる。どうしても高台を希望する住民が多く、空地は限られているため需給が逼迫している。（坪単価20万円台の取引もある） 雇用 建設業者の人手不足は深刻だが、県外業者と提携する動きも見られる。しかし、他県からの支援者向けの賃貸アパート等の住居が足りないこともあり、当面人手不足は解消されない見通しにある。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	以前より被災した住宅を修繕し、仮設住宅から帰ってきた人々が多少増加した。鉄筋コンクリートや鉄骨造りの被災建物の解体、撤去は進んでいる（土台の撤去も含む）。仮設住宅に住んでいる人達の外出する人数が増加した（就労している人の増加）。

やや回復した	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	住宅の再建、特に自分で新築して数えるくらいですが進んできましたが、高台移転の方は進まないようです。生活の回復はワカメの新獲り作業が自主的に仮設倉庫で始まってきております。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	当地は沿岸北部にあるが、漁業関連の災害復旧工事が本格稼働したことによって、当地の主要産業である漁業に回復の兆しが見えてきたことで、町全体に活気が見られる。まさに活気が見られるようになったが、工場等共同施設の回復は一般市民の生活となれば変化しているとは言えない。購買力もいま一歩というところである。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	家をなくして住む人や新築をする予定の人も増えてきているので、少しは回復していると思います。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	家の新築が進み、少しずつ将来に向けての生活設計ができつつあると感じる。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	少しずつではあるけれど、確実に復興していると思います。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	地元のスーパーが店舗を出したり、個人の家がだんだんと建ってきている。また、復興の住宅の測量が始まった。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	商店街はないが、復興プレハブの建物で商売を始める人達が増えてきた。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	仮設住宅の生活には慣れてきたが、建築制限などもあり、家を新築する見通しが立たない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	仮設住宅の住環境は以前と比べて変化はないように思うが、道路整備、商店街の新設等、幾分復興の兆しを感じられ、それが被災者の生活の回復感になっているように思う。
どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	未だ震災前に居住していた地域に戻れず、生活している方々の今後を考えると、一日も早く高台移転等が進んでほしいと思います。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	高台へ家を建てて住み始めている。金銭的問題がない人は家を建てることができるが、そうでない人は以前のように仮設で暮らしている。お金がある人、ない人、仕事をしている人、そうではない人と格差が出てきたと思う。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	被災後再建したスーパー、仮設商店もそれぞれ日常生活に定着しつつあり、バスの便も使いやすい時間、ルートに変更になった。被災しなかった奥地には新築の住宅や仮設の商店ができ新たな住宅街が移っている。水産業はよくわからないが、建設会社はボーナスが徐々に支給されたとの事で喜んでいた。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	高台移転の協議会の話も進んでいるが、まだ、どこに、いつ住めるのかというふうな具体的などころまで進んでいないから。

どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	住宅再建や居住意向に関する「個別意向確認調査」が始まりましたが、盛土による土地区画並びに集団移転のための土地搜索等は、この先どうなるのか。（平地の狭小な土地柄なので）第一次産業の水産業従事者は、死亡、廃業により半数以下になっており、又再建者の方々の中でも明暗が見えてきております。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	被災後約1年半がまもなく経過しようとしている。団地内仮設住宅の住み心地は決して快適なものではない。不自由な中でコミュニティ活動が定着し、隣人愛・互助精神も醸成されているようである。仮設団地での生活のリズムが軌道には乗ったが、将来のことを思うとき、精神が不安定なようである。被災者の生活の回復度はなんといっても「家がほしい」、これが解決されることこそ回復度に繋がると思う。土地があっても浸水被害地区なので家が建てられない。高台移転が決まった地区もあるが、我が仮設団地内は未だ決まっていない。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	中心部に仮設長屋店舗がようやくできました。店主は元気を貰い、一生懸命ですが客足はぼちぼち。買い物客はスーパーの方が多く、節約の生活は皆同じようです。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	仮設住宅の中でも新築や新築中の方々が増えてはいるが、相変わらず今後の生活に不安を持っている人が多い。高台移転の話も進んではいるが、遺跡調査とか保安林等いろいろな障害があり、工事の遅れが心配だ。もっと国と県が被災者の身になった考え方をしてほしい。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	養殖が一部で出荷が始まったが、まだまだ生活はできなくて大変。漁業準備しながら土建のアルバイトをする人も多い。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	仮設住宅での生活を余儀なくされている方、家屋は被災しなかったが職を失った方など苦勞されている人は多いが、生活そのものは落ち着いてきていると感じる。今後は人口流出を防ぐ観点からも企業誘致が必要と考える。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	買物をする人が増えていて、やや進んでいると思う。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	若い人達には、どうにか仕事はあるかもしれないが中高年になるとなかなか厳しいものだ。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	自分の周囲の狭い範囲では、相当回復したと感じるが、仮設住宅等の状況を自分の目で見ていないため何とも言えない。求人数も高い求人倍率で推移しているが、正社員の求人は少なく、又高齢者の就職は困難。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	震災後一年半になろうとしているが特に被災者の生活に関わる問題については進展が見られない。仮設暮らしから復興住宅に転居がなされれば落ち着いた生活を送ることができるだろう。今はまだ計画の段階なので。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	集団移転先の地主の了解を得たようだが、未だに説明がない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	住宅建設をしている人、高台移転の話がまとまらず、足踏みしている方々、どちらとも言えない状況にあると思う。店舗は増えてきていて、不自由なく買物はできているが、他の業種は再建が進んでいない。

どちらとも言えない	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	新築や改修等して仮設住宅から出られる人はまだほんの一部のみ。多くの人は高台移転を待ち望み、いつまで続くともわからない仮設での生活が続いています。高齢者や一人暮らしではもっと大変である話も耳にします。福祉施設の再建も足踏み状態で、仮設生活で要介護者が増えたことへ対応できない現実があります。町外への人口流出も多い状況、逆に戻りたくても仮設の住環境がバリアーとなり、受入施設もないため足止めされている高齢者、障害者の話も聞きます。仮設生活をする要介護者への支援はまだまだ十分とは言えないと思います。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	住宅再建のために自前で土地を手に入れ、家建てたという話がポツリポツリと出ている。しかし、大多数の方はまだ仮設住宅暮らしであり、何とも言えない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	買い物用のバス等が出るようになって、被災者の方々は利便性が増してきたと感じる。仮設店舗は増えてはいるが、いろんな所にバラバラにできていて、どこにどんな店があるのかわかりづらい。仮設住宅に風呂の追い炊きの追加や物置の設置を行っているが、早いところは終わっているのにまだ全然始まっていないところがある。(今回に限ったことではなく)
あまり回復していない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	特に仮設住宅の状況やがれきの撤去等はほとんど進歩はないと感じる。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	方向性は決まりつつあると思いますが、被災した方々、自分も含め県、自治体の対応が遅いと感じています。特に公営住宅を希望しましたが、現在の家に住める状態では公営住宅に入居できないと言われてしまいました。とても残念かつ今後の不安を感じています。入居の条件が厳しいような気がします。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	雇用は全く回復されていない印象があります。私自身は仕事があるのでいいですが、たいていの方は職を失い、生活のメドが立っていないのではないのでしょうか。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	住宅再建がなかなか進まない。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	ほとんど変化ないと思う。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	震災前に売れ残っていた宅地を買って家を建てる方が目に付くようになった。被災した場所に建設する人もいる。しかし、肝心の高台の宅地整備と高台道路は着工されていない。文化財の調査を行っている。決まり事だから仕方ないのかもしれないが、高齢の方にとっては1日1日が長く感じるのでは。早く宅地整備をして家を建ててもらいたい。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	仮設住宅のうちは回復しているとは言えないが、最近はやっと公営住宅の建設の話が具体的に聞こえてくるようになったのである程度回復へ向かっていると思う。ただ、その反面、待ちきれずに自力で一戸建てを建てる人達も増えてきたので、そのような方への支援(補助金や低金利ローン)等も充実させるべきだと思う。

あまり回復していない	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	雇用面では、期間付きながらも震災雇用等や新店舗（仮設）のオープンに伴う雇用等、多少でも回復しているように見える。 住宅面は、代替地の遺跡発掘が人材が不足の中行われており、用地交渉等やっと始まり、住民への説明が8月初め、行われるようなので、まだまだこれからだと思う。自力で新築できてる家はほんのわずかである。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	被災者は依然借家住まいで不便をきたしている。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	仮設住宅に入居した当時と生活環境は全く変わっていない。最近買物専用バスが週1回仮設前から運行されていますが、利用者が少ない。日常生活必需品（毎日の食料9人家族分）を買う店舗が遠く不便を感じています。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	被災前と比べ、回復したということはないように思う。逆に震災から1年以上が経ち、回復度や回復の速さを冷静に見ることができるようになったことで、不安を強くしている人も多いように感じる。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	復興計画が具体化せず経済的にも肉体的にも先行き不安を感じているように見受けられる。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	希望する移転地は決まったが造成工事等、力強く進んでいるとは言えない。あと何年仮設での生活が続くのか。暑い夏が過ぎ、又冬に向かうが希望より不安の方が多くなる感がある。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	近所でも被災者が住居を新築しているようであるため。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	仮設の店も増えない。 海岸線の県道（バス通り）もでこぼこで震災後一度も修復なし。 新築、改修する家もなく、高台移転先が見えない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	事業主中心ではあるが、仮設店舗が建ち始めた。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	残念ながら、回復度が目に見えない。 企画段階では進んでいるようだが、具体的な動きが目に見えてこない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	仮設住宅入居者の生活は、1年以上が経過し、ある程度回復してきたと思われるが、住宅再建、復興住宅入居等の本格的な生活の回復は現段階ではあまり進んでいない。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	地区により建物が建てられない等、いつまでも仮設住宅での生活にあせりを感じている人もいる。 被災建物が解体され、かなり少なくなってきたが、整地まではまだまだ時間がかかりそうだ。被害当時は、その場に行くのも嫌だといっていたが、時間が過ぎ、今は元の土地に家を建てたいといっている人が多い。
教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	仮設住宅での生活は慣れてきているように思うが、災害復興住宅（公営住宅）の建設が進んでいないため。	

あまり回復していない	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	生活の先が見えない。住む場所がない。このままいつまで仮設住宅なのか。計画は立てているが、そのとおりに行くのか。 人口流出→高齢化率の増加 がれき撤去等の緊急雇用の仕事はある。その他各事業所でも求人を出しても人が来ないということもあります。これから若い人がここで暮らす中でこの仕事という就きたい仕事がないのかもしれない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	震災後1年以上経過し、生活は安定した様子が見えるが、回復にはまだ時間がかかるという方が多い。特に1次産業とサービス業が回復したとは言えない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	個人で住居を建築する方も少数ながら見受けられるようになってきたが、高台移転事業や高台への災害復興公営住宅等建設工事等の具体的なアクションがまだないため、進んでいないと感じる。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	被災している人の生活状況を見ると、回復していない人が多く見られます。経済力があり、仕事を失っていない方では、住宅を再建しておりますが、もともとの経済力が低く、職を失った方においては生活は厳しいと思われます。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	移転先が確定されず、住環境の整備が進んでいない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	被災地域の復興が進まず、仮設住宅生活が続いているから。以前はパート等で働いていた主婦層の働き場所がなく、家にこもっている人が多いから。交通機関（鉄道）が回復していないから。高齢者が外出しないので。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	家を修理する人、新築する人も見受けられるようになった。自分の力でできる人はいいが、かわらず定職にもつげず、日雇いの生活での不安が今後の不安になっている人も多い。 震災前の地域の活動はもちろんない。避難所で自治体のような活動もできてきたところで、地域別々の仮設住宅への入居。孤独な人がいないように何かの関わりがもてるようにしたいと思う。
回復していない	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	ごくわずかな人達が新しい住まいを着工したり、早い人では新しい土地に新築ですでに住まわれている人もいる。しかし、大半の人はまだまだ仮設での生活が続いている現状（この後も）。高台移転の計画が一日でも早く現実のものになってほしい。 子どもたちの学校生活も大きな差は今のところ出ていないように見えるが、今のままの生活（住）環境であれば、この先どのようなようになっていくのか心配である。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	高台移転の土地整備が遅れているようだ。 仮設住宅に住んでいる人の中には自分で土地を見つけて建て始めた人もいるが、老人世帯の人達は先のことが心配だと話している。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	被災地にはプレハブの店が数件できた程度で、知人はバラバラに仮設住居やみなし仮設で暮らしている。3ヶ月に比べても少しも前進は感じられない。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	ここ最近では被災した住所に家を建て直して戻ってこられる方はちらほら出てきているが、未だに仮設に何千人って人が住んだままだから。

回復していない	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	高台移転や防潮堤の整備等、無駄な事が多く、時間ばかり前に進み、実がない。民間のゼネコンに委ねた方が早いと思う。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	まだまだそのままの状態です。働く職場もないし、なかなか大変です。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	現在、仮設住居に入居しているが、周囲の仮設住宅からこの1年あまりの間に7世帯が退去された。そのうち、地区外に住居を新設したり購入した世帯が4世帯、また借家に移られた方が1世帯、地区内の被災家屋を補修して住み始めた方が2世帯です。自治会の世帯数37世帯の18.9%にあたりますので、そのことをもって回復率約20%と言えない事もないのですが、残る30世帯は、高台移転や災害公営住宅、そして区画整理事業がいつから始まるのか、情報が少ない中不安を抱えながら忍耐を強いられる状況にあります。その方々にとっては、生活の回復は進んでいないこととなります。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	自治体の復興計画のロードマップという形で示されたが、その各計画の各地域の具体策は説明は十分とは言えず、特にも防災集団移転の場合、各地域ごとに問題は様々であり、進捗状況がスローで被災者の心情は大変複雑の心境である。もっとスピード感のある行政指導が欲しいと感じられる。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	高台移転の問題があまり進まない。被災した土地の買上げ補助制度等、複雑で自分が家を建てられるのか災害公営住宅へ入るべきか等住宅問題は大きな不安要素のようです。海岸の仮堤防（岸壁）工事は少しずつ進んでいるようです。高齢者が多く、健康管理と生活の知恵と明るさでがんばっている所は少し余裕が出てきているのかな。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	仮設住宅にいたので持ち家がまず基本となると思うのと、自営業での収入がまだないので、被災前と比べると回復していないと思う。被災者の生活については、仮設に入居して1年になるので、まわりに慣れてきたのと、ある程度落ち着いてきたと思うけど、この間、孤独死があったので、いろいろやったり気を遣ってはいるが、生活とてまだ安定してはいないような気がする。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	失業者等は増えたように感じる。仮設住宅の入居等により被災者の生活が安定したように思われがちだが、今が大変との声がある。雇用による安定収入など急務だ。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	仮設住宅、アパート等、生活に不満がたまってきた。人間関係が薄くなってきた。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	がれき撤去が完了していないから。高台転居（移転）の話は出ているが、高台に平地が整備されていないから。仮設住宅に住んでいる人が多くいるから。（仮設住宅を出て、自分の家で生活できている人は多くない。）

回復していない	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	仮設の近所で問題が起こってもなかなか解決できない。 (出るに出られない) 流された土地には住むことができないが、税金を払い続けなければならない。市で買ってくれるわけでもないので、その地区以外に土地がない人達にとっては大きな問題である。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	商店、事業所等の開設が進んできたが、肝心の住宅地の整備がまだ目に見えてこない。よって、仮設住宅で生活を続けている方には、次のような課題が出てきている。 防音が不十分なために、隣の生活が気になったり、逆に気を遣ったり、心に「モヤモヤ感」を抱きながら生活している。 同様に、子どもの雑音がもとで夏休み中、日中子どもを仮設におけないという問題も起きている。 「つて」があったり、財力があったりして、早目に土地を求め住宅建築に漕ぎ着けている方とそうでない方の温度差も見られる。 早めに建築されている方は、高台の土地を得ているので、かつてのコミュニティが今後崩れていく可能性がある。 (仮設入居の方々は、かつてのコミュニティにあまりこだわってない方も結構いる。まず、早く土地を見つけ、住居を構えたいと切望しているようだ。) 心のケア、身体のケアは大人にこそ必要。高血圧、うつ、いらいら感等、とても心配だ。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	経済力のある人は家を新築中。しかし、将来に不安を抱えながら仮設での生活を送っている人も多い。震災後、要介護状態が悪化し、介護者が仕事を辞めるかどうかの岐路に立たされている。みなし仮設での生活もいつまで続くのか不安。介護保険の利用料、医療費が免除されるのも9月末まで。今まで負担してこなかった分、10月以降の負担感が増大するのは間違いない。義援金もいつの間にか底をつき、今後の生活は不安だらけ。家を建てるお金もなく支出はかさむばかり。年金が増える訳もない。施設に入れたくてもお金がない。介護者が倒れるのが先か、高齢者が亡くなるのが先かといった瀬戸際に立たされている。被災者とそうでない者の温度差を感じる。震災を過去のものとして捉え、生活できている者がいる反面、今なお苦しんでいる者がいる。しかし、仮設には住んでいないし、仕事も続けられている状況なので、その辛い思いを吐き出す場がなく、もがき苦しんでいる。今更弱音を吐けない状況。「いつまで被災者なのか？もう被災者ではない」といった内容の言葉を耳にした。心の傷が癒えない限りは被災者なのだと思う。 ※医療費の一部負担については、9月補正予算で対応
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	買物の不便さはあまり変わっていない。店も少なく交通も不便なよう。住宅は建設されている住宅も見かけるが、仮設生活を続けている人がほとんどである。建築資材や人材が足りていない話も聞く。

II 地域経済の回復に関する実感

地域経済の回復度及び3ヶ月間の進捗状況についての回答区分により、自由記載欄の記載内容を取りまとめると以下のとおりであった。

区分	職業・所属等	年齢別	地域	自由記載（理由）
回復した	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	漁民や漁協に対する手厚い税金の投入により、地域の経済はバブルとうかがえた。しかし、税収は向上せず、暗黒の時代を迎える1歩を歩んでいる。流動人口を増やすことが復興の掛け橋となる。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	水産加工関係工場も順調に動いている。畑作農家も順調に栽培が進んでいる。酪農も同様に推移。ただし、放射能汚染の風評被害を心配している。
やや回復した	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸北部	水産業の回復が一番望まれているのだと思います。私自身それに関わる情報に乏しいので何とも言えない所がありますが、メディア等の情報から考えると回復しつつあるように思っています。
	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	仮設店舗や商業施設の再開が進んでいます。将来の都市生活がイメージできる都市計画を期待しています。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	津波で破壊された工場の再建がなされてきている。被災した水田に稲が育っている。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	地域経済は回復しつつあると思います。しかし、個人経営者は、回復できていないのが現状だと思います。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	特にも海の関係する事については少しずつですが、回復の望みを感じる。まだ自努力による漁業関連の復旧を感じるが、海そのものの資源を元通りにするにはまだまだかかりそうな気はする。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	3ヶ月前と同じ状態のように感じるが、実際の状況が耳に入ってきたりしないためなのかもしれない。そのため自分には分からない。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	以前に感じていた地域経済の進捗はもちろんその企業努力も含め前に進んでいる印象を持ち始めました。以前は完全にその会社の人達の努力がよく目に入ってきていましたが、雰囲気明るくなったように見えます。周りの支援や日本全国の支援のお陰なのかなと自分は思っています。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	特に漁業の回復を感じる。サンマの水揚げ等。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	少しずつですが、物が動いてお金も動いてきたように思います。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	仮設店舗等で営業できるようになり、良かったと思います。漁業も以前よりはまだまだ不足ですが、回復してきているようだと感じます。

やや回復した	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	企業の求人（高卒用）が例年より増えている。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	仮設の工場等も建ち、以前の仕事ができる方も出てきたと思う。しかし、水産加工関係は防潮堤が定まらないことには何ともならない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	仮設住宅の入居者の生活が以前から比べると皆で何かやろうとする意欲が出てきている。移動販売者が来ると買物する人が以前から比べるとだいぶ多くなった気がする。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	少し前は、居酒屋等、飲食店の出店等が目立っていましたが、現在は水産加工業、農業と少しずつ回復していると感じています。また、ウニ漁も始まり、一部の地区では海産物をメインにした祭りも開かれる等、前進を感じています。被災した農地では出来はまいちでも収穫の時期を向かえ、農家の皆さんの喜びにも繋がっているようです。ただ、水産業（加工業も含め）、農業も施設の復旧、農地の復旧はまだです。携わる皆さんのモチベーションが下がらないよう、気持ちを盛り上げることも必要なのかなと感じています。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	数件水産加工業者等が再開した。漁業、水産加工関連の再開の話題を聞くと、やっと地元の明るい未来が見えるような気がして嬉しいという復興の実感がわく。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	養殖漁業の方よりの話ですと、最近までは共同で復興作業していたが、今後は個人で進めていくようになった。少しずつですが回復しつつあるようです。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	1次産業の生産基盤の復旧が遅れており、各生産者が就業できず早期の生産基盤の復旧が望まれる。水産業は特に養殖漁業者は、漁船（5tクラス）の取得が遅れており、本格生産ができずにおられるようで、漁船の建造者への早期復旧と漁業者への漁船が取得できるよう早急にアクションを起こすべきである。漁船建造のオーダーはしてあるが入荷していない。平成24年分の新造船の予算の決定が遅れ漁業者は苦慮している。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	農業関係はまだだと感じる。商業関係は回復しているように感じる。漁業も生産活動（ホタテ、コンブ、ワカメ）が行われている。他の養殖関係はだいぶ進んでいるが、生産までは至っていない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	浸水した水田は回復しているが、漁業面で船の復興が進んできた。商業関係も仮設等で再建、再開している。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	津波後1年5ヶ月になり、何もなくなりましたが、コンビニができ、夜は明るくなったと喜んでいました。車のない人は少しでも喜んでいきます。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸北部	加工場はまだ建築が始まっていないが、種苗施設は予定では9月頃完成予定と言ったように徐々にではあるが回復している。
産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸北部	原木しいたけ生産者は放射線検査を全戸検査し、出荷しても放射線風評被害のため価格が大変安く、生活が苦しい。国、県が早く対策してほしい。	

やや回復した	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	仕事はあるが人が足りないようだ。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	海に行く道路が整備され始めてきているため。鮭のふ化場も建設され始めているため。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	養殖施設が約半分くらいできたので、それによるワカメ、コンブ等の収入を得られることにより浜が活気づいてきた。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	組合のかさ上げ、改修ができた。岸壁のかさ上げも所々進んでいる。漁師の作業場は金銭面の支援がないため、個人で作業を始めた人もいる。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	商店街や水産加工場等、ここ数ヶ月でかなりの数が復興しております。農業は土の入れ替えはしてもらったが、機械がすべて流出してしまい、復旧にはかなりの時間がかかりそうです。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	店頭を見ると地元の海産物や野菜が並んでいるので徐々に良くなってきているのかな、と思っております。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	復興需要を背景に企業（特に建設関連）業績の回復が鮮明になってきている。一部企業では決算手当の支給や社員旅行の実施など消費活動にも波及してきている。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	水産業についてですが、現在船が完全にできないため共同利用していますので思うように漁業が進まない。ウニの開口していくらか浜の方も活気づいてきたように思います。その他、いくらか進んできております。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	大手の水産工業の工場の再建が具体的になっている。しかし、再雇用確保される反面、他企業では求人を出しても人材確保を出来ない状況との事。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	仮設住宅の近くにいろいろな店舗が増えた。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	店舗の修繕、新築等により、商店の再開が多少ある。グループ補助金等の活用により、再開した企業があり、それに伴って雇用の促進につながっている。依然、復興特需関係の業種は多忙の様であり、他県から来ている人々が多いように感じられる。市内のアパートや借家を必要とする人々やビジネスホテル等の宿泊施設を利用したい人々は空きがなく非常に困っている。日中の遊技場の駐車場の空スペースが目立つようになった。それは就労者の増加と思う。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	被災後はがれき関係の仕事は忙しく、他県からも企業が入り一部の業種はバブルである。店舗が被災し、仮設店舗で運営しているが、場所によっては以前より売上が少なく、又大型スーパーが開店している等厳しい状況などもある。

やや回復した	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	住宅地の空地で新築工事が多数見受けられる。又、自分の知り合いにも流された家屋を再建する準備をしている人がいる。 飲食店は相変わらず盛況の様子。新規出店もある。新卒者求人も好調な出足。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	漁業関連の災害復旧工事の本格稼働によって、地域経済に回復の兆しはあるが、住民の購買力にいま一歩力がないため、全体の底上げとまでは至っていない。ただし、各種のイベント企画等で回復に向けての努力は見られる。 震災復興関連工事が始まっているが、地元企業の活力が弱い ためほとんどが中央企業の下請けとして参加している。 このため、地元にはあまりメリットがないように見える。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	スーパーや工場も新しく建設され、人も入ってきている様子なので回復していると感じている。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	仮設店舗等は造られ、やや回復しているように思うが、その後、あまり変化がないように感じる。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	農業において、去年は浸水により作付けされなかった田畑に今年は作付けしている田畑が増えてきた。 漁業においては、ワカメ漁、ウニ漁が行われ、少しずつではあるが、前進しているようだ
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	漁港が整備されてきている。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	雇用は増えているが本採用ではない。また、地元の企業ではなく、期限が切れれば現地から出て行く会社もあり将来が見えない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	地元の新聞記事、広告、ちらしが増えていること。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	商店街が仮設店舗で再開するなど、商業は比較的回復してきたと思います。水産業は少ししか進んでいないと感じます。養殖、定置等の従事者くらいしか海の仕事がないような感じですが。地域内の要所を巡るサービスの利用はとてよく、多くの利用者があるようです。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	自分の周囲を見てというよりも、ニュースを見て、少しずつ少しずつ地域経済の回復が進んでいるんだと感じている。 行事事業担当者や観光客などが進行や参加することで活性化していくことを望んでいる。
教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	復旧した農地に田植えし、稲が育っている。商店への仮設店舗も整備された。一方、最近前から営業していた飲食店が店を閉めるなど、経済が回復しているといえるのか、どちらとも言えないと思っている。	
教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	ウニ栽培センターが再稼働したことや昨年よりウニが多く売られていたことから水産業が少しずつ活気を取り戻していると思う。	

やや回復した	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	建設関係は元気があるが、1次産業はまだ進んでいないと感じる。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	雇用状況は漁業を中心にして、やや回復してきたように思う。
どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	10歳代	沿岸南部	経済的に見ても、被災前とは比べられませんが、ここ3ヶ月間で大型スーパーができるなど商業施設は仮設の店舗も含めてかなり充実してきていると思われます。土建関係も、あちらこちらで建設があるため忙しいとは聞いていますが、今後、かさ上げ等の公共事業が本格化してくれば雇用の方も拍車がかかってくるのかなと思う。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	地域経済の回復を実感できない。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	震災前と比べて、お店にお客さんがたくさん入っているのを見る。震災の影響で遠くからお客さんが来ているのかもしれない。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	大型店舗の建設で買物はしやすくなってきているが、働く場所としてはまだまだ不足しているように思う。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	商店街は増えてきて漁業も最近漁の話聞いたのである程度回復してきたと思う。農業に関しては荒地となっているところが昨年より見られるので住宅にでもなるのかと期待してしまうが、スムーズに手続きが行えるようになればよいと思う。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	地元のホタテを食べたいがない。養殖関連はまだまだ時間がかかるようだ。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	変化の様子はあまり感じられない。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	農林水産の件 水産業は海のことであり、1年サイクルで進むと思います。農業は一部来年度からのところもある。林業は今復興の用地としての開発だけで林業を今後どのように皆さん方が思うのでしょうか。日本の杉松は良品であると中国が思っているとの事はテレビで見ました。全てが先代達が手がけたものと思います。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	仮設商店街の建設が徐々に増えてきた。宿泊施設2箇所が建設される等、少しずつ地域経済の回復が見えてきたようである。水産業にあつては、ワカメの養殖が復活。ホタテの養殖が軌道に乗ってきた。ウニの口開けが2年ぶりに再開され、活気が見えてきたようである。しかし、養殖施設の黄色いブイが海面にたくさん浮かび、活気を呈しているかに見えるが、震災による影響が漁業人口を減少させ、また現金収入を得るための出稼ぎで未だ着業していない地区もあると聞く。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸北部	被害が少なくても、生活安定や向上はされているとは思わない。震災だけではなく景気低迷も理由の一つでは。
産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	地公体による復旧工事の発注により、建設関連業者については、業況好転しているが、それ以外については震災以前の低迷が続いている。	

どちらとも言えない	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	聞けば忙しいとどの業種も答えるが、それが雇用、特に正規雇用にはつながらない。皆、一過性の忙しさだと冷静に見ている。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	養殖業の生産体制はやや補助事業の具体化で津波前の状況になりつつある。他の業種の回復は遅く、海を去る人が多く見られる。組合員数の減少が気になる。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	がれき処理等かなり進んではきているようだが、まだまだほんの一部であり、がれきの山を見ると心が痛む。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	水産加工業については、回復してきたところもあるが、地域経済全体で見れば、回復したとはいえない。まだまだ多くの企業が仮設店舗に入居している。今後の状況が不透明である。建設業など、一部は復興需要により大幅に回復している。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	水産業及び水産加工業は、冷蔵庫の改修が進み、製氷工場の新設工事も進んでおり、昨年より大幅に受入体制が整ってきている。漁船の新造や改修も次第に進んでいるが、絶対数はまだまだ足りない。(被害が甚大だったため)第4次グループ補助金の決定を受けて、宿泊施設(旅館、ホテル)の改修や新設の動きが活発になってきている。一方、旧商店街の店主で、仮設商店街組合もグループ補助金の内定を受けた先が多いが、中心地は土地区画整理事業により整備する。完成まで最短で9年を要することから、再建場所の確保が課題となっている。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	湾港や圃場の復旧工事の入札情報が見られるようにある等、一部で復旧の動きが見られるが、水産加工業の復旧も一部で実施再開されているようであるが、一ヶ月に7日程度の勤務日数のようであり、なかなか安定して雇用されるとは限らないようであり、まだ不安定であると思う。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	産業種別で大きく異なると考えました。被害の大きかった水産業や水産加工業の様子を見ると、従事される方々の努力によって回復は見られます。しかし、まだ震災前までの活気に戻るには時間がかかると思われます。資金面でもすぐに使える支援策や返済の猶予を十分に考えた支援が充実することで回復は早まるのでしょうか、期待します。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	仮設店舗が増えてきたが、水産加工等でパートさんがなかなか集まらないようだ。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	経済の回復に近づくよう人々も動いている。しかし、働く場所を失った人々がいることも変わらない。我が地域の水産業に携わる人々の動きは生産物等からも見えてくるものもあるが、それ以外の地域経済はどのようになっていくのか。回復することができるのか不安である。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	仮設店舗は増えてはいるが、やはり近隣の他地域への買物に行く人が多いと思う。
教育・福祉施設関連	60歳代	沿岸北部	夏にはウニ漁があるのですが、今年は一回だけでウニ漁が終わってしまったこと。水産業はまだまだ回復していないと感じられる。観光ホテルが今年中に修復完了するみたいなので、たくさんの雇用が期待されると思う。	

あまり回復していない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	金融機関は支店が開店しています。水産、林業等はだんだん回復しているようには思いますが、地域経済全てが回復したと思える程ではありません。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	仮設の店舗、作業場等はできてきたが、人の動きはそれほどないのではないかと。他から来ている作業員等はかなりの人数がいるみたいだが、被災して職をなくした人は変わりないと思う。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	中小機構の仮設店舗の建設が遅く、なかなか再建できない企業が多い。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	水産業も漁港も被災した時の状態で海岸に行くのも恐い状態です。海岸整備も早急に進めてほしい。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	仮設の店舗が4月から7月にかけて次々とオープンして、元の店舗より小さいながらも皆少しでもホッとした表情がうかがえる。私自身も、元働いていた店から声がかかり、また就職することができ、良かったと思っています。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	自治体の緊急雇用対策に頼っている状況で安定性がない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	一部の防潮堤や護岸のかさ上げ等を見れば徐々に前に進んでいると思われる。しかし、水産関係、製造業での仕事を失った人達の雇用が進んでなく、活性化になっていない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	漁業も農業も前回とあまり進んでいない。水産加工の工場はほとんど動きがないようだ。仮設店舗は数件開店しました。個人経営の店は仮設とはいえ回復しているようです。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	基幹産業である漁業に関しては、磯浜漁業に欠かせないサップ船が徐々に導入され、共同利用が進んでいる。また、海鮭の定置網漁の主力漁船も配置され、定置網漁業も震災前の状況に近づいている。しかしながら、商業は未だに仮設店舗での営業に留まる他、観光産業は壊滅的な打撃から立ち直っていない。また、軽工業は一部企業を除き、地区外に工場を移転しており、戻ってくる見通しはない状況である。土地利用についての計画が示されないまま推移すれば、地域経済の回復は漁業関連に限られ、他の産業は再生の道を閉ざすことになる。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	仮設店舗、事業所等の建設が進み、ある程度地域経済の回復は感じられます。地元の基幹産業である水産業の復興については回復に向かっていますが、まだまだ時間がかかると思います。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	漁船を用意するのに多くの皆さんからの援助を受けて、1割負担なのに今の生活からは何も出てこないと悲痛な声でした。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	農業に関しては復旧した水田の作況が遅れ気味に見える。漁業に関しては倉庫、磯舟の配備はほぼ完了したようだが、夏季のウニ漁は全くの不漁である。商業に関しては一部食料品等の売り上げは上向いているように見えるが全体的には停滞している。

あまり回復していない	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	第4次グループ補助金の認定に向けて、地元の事業主が協力して申請を進めてきたが、結果的にほとんどの先が認定されず失望感が漂っている。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	やはり地域の経済基盤の方向性すら見えない状況だと思う。復興に関わる雇用はやがて終わる。地域が真に再生するためにはしっかりした経済基盤と都市づくりが求められるだろう。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	年配者は少ない年金で暮らしていて、貯蓄傾向にある。若い人もみんな働いているわけではない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	地域外業者による復旧、復興受注が多く、地域経済には貢献していない。食料品以外の地域購買力が低下している。（各種イベントでの1人あたりの購入単価の減少）
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	仕事場の整備が急務。漁港等、やはりまだまだ。漁業従事者もかなり減った。人口の減少も不安要素である。昨年度と比べて、外部からの支援が情報として入ってこない感がある。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	農業、漁業の再開の話はとても嬉しく感じます。しかし、後継者がいる人、また、若い人は金銭的にもスタートできる人はいいが、高齢者で今後の生活も不安な人はどうしたらよいのでしょうか。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	事業所再建の査定が厳しいようである。進行状況も遅い。
回復していない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	仮設の店舗はできてはいるが、仮設住宅からは遠く車や公営バスを利用しないと行けない所にある。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	水産加工場が再建されたいが、被災前の工場等も外に建設され、飲食店も内陸の方で続々再会された話を聞くのと、復興する商店も減り、今ある仮設商店も衰退しつつあるように見える。震災を期に被害の少ない内陸の方が震災イベント等で復活して悔しい。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	土建屋だけがバブル再来ですね。飲み屋も土建業者で毎日繁盛と聞いています。水産業は一部水揚げが始まっているが、生活するには厳しい。（所得は激減しているのに支払い増加）
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	いろいろな制度や支援により、漁場は回復してきていますが、そこがスタートで収入が安定するにはもう少しかかるのと漁場は回復しても漁港が十分に使えない。壊れたまま。漁場内の設備、建物等、まだ何もできていない。わかめやホタテは収入になってきたが、カキやホヤ等、まだまだ収入になるには何年もかかりそうだから。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	中小機構による仮設店舗は建ち始めているが、高台に点在しており、集客力が弱い。商店街の体を成していない。この要因は被災者が土地を探して地主と契約してからでなければ中小機構の仮設店舗建設の申請を受け付けなかった自治体の考え方に問題があった。各人が、それぞれ自力で土地を探すことは震災直後の状況ではそもそも無理な話であり、他の自治体に比べ回復が遅れている大きな要因である。 役所のリーダーシップが全く感じられず、待てない民間が立ち上がろうとしている姿に拍手を送りたい。

回復していない	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	地域経済の中核を担っている企業、事業主など、設備復旧が進んでいるように感じる。又は、復旧の計画が進んでいるように感じる。一方で、商店街など仮設店舗の営業となっているが、商圈の受けた被害は深刻であり、活気のない様子を感じている。一度整備した仮設店舗等とはいえ、形式だけのものであり、地元商店街の努力も大切であるが、それをもって回復したとは言えない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	買物等、不便を感じています。学校公共事業などまだまだ復興していない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	復興に向けての新産業設立の動きがあまり見られないから。被災した場所（平地）にあった商店、企業が仮設店舗での営業にとどまっているから。地元企業が外へ転出している話をよく耳にするから。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	大型スーパーや店も少しずつ建ってきているが、仮設からは遠く、自動車を持っていない人や乗れない人はなかなか買物に行きづらい。（特にお年寄りの方）
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	水産業がなかなか回復できずにいるから。（海中や海岸の整備の他、船を始めとする施設設備の準備には相当な金額が必要だと聞く。この地域は水産業が回復しないと経済が回復しないと思う。）
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	魚菜市场、産直に行くが相変わらず品物が少ない。県内産、地元産の魚が少ない。物足りなさを感じる。がれき処理の仕事も期限付き。その後の生活の見通しは全く立っていない。祭りの宣伝を見た。一部地域のように経済的基盤があれば前向きにも進めるのだろうが、取り残されている人々もいる。
分からない	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	店に行ってみると、買物をする人が随分増えていると思うので、進みが少しはいいのかな？と思います。

Ⅲ 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

災害に強い安全なまちづくり及び3ヶ月間の進捗状況についての回答区分により、自由記載欄の記載内容を取りまとめると以下のとおりであった。

区分	職業・所属等	年齢別	地域	自由記載（理由）
やや達成した	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	一部地区の堤防の工事が始まり、目に見えて復旧を感じています。また、港の防潮堤の工事も始まり、住民の皆さんも安心感を感じているようです。ただ、まちづくりに関して、計画はできてもこれから具体的な動きが始まる場所です。どのくらい災害に強いまちづくりをされていくのか、復興道路の建設も含め動き始めたという実感はありません。また、今年も昨年引き続き総合防災訓練が行われます。住民の中の防災意識も薄れてはいませんが、このような訓練で意識と備えの再確認は度々必要だと感じています。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	一部の防波堤が随分と目に見えて出来てきていると思う。お盆には出来上がるらしいです。すばらしく早い事だと感心しました。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	近々、防災訓練をやると聞いている。震災前とは意識を変えた訓練ができるのではないだろうか。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	がれき撤去は進んでいると思うが、海岸沿いの道路を通る時、津波対策の施設や防波堤がなく、とても不安である。
どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸北部	周辺の道路整備、堤防等の整備等は進んでいるように思いますが、以前より充実しているかと問われると何とも言えません。しかし、私達、ここに住む者の意識は充実してきているものと感じていますし、それが何よりも大切なことかと思えます。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	災害に強いまちを作るという事は、皆さん今日明日生きるという事でいっぱいいでそこまで頭が回らないのではないのでしょうか。当然震災前よりは安全に対する意識は高まったとは思いますが。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	まだまだ時間がかかるようだ。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	未だに水門の扉が壊れたまま。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	防潮堤の整備等、ハード面については、今後の工事なので何とも言えないが、様々な面でソフト面の啓発活動は進んでいるよう。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	私は時々前住んでいた所に出かけます。道路だけは良いのですが、前住んでいた所は何もなく、ただ、ただ広く感じます。私の住んでいた家より少し上の方は土を盛ると住めると思うけど、なかなか何とも言えない状況です。でも、少しずつですが何かが動いています。時間がかかると思うけど一步一步で…ですね。

どちらとも言えない	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸北部	防潮堤そのものが被災前と変わらない状態で残っているからです。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	防潮堤の壊れた所の修理だけで新規の工事は始まっていない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	湾岸のかさ上げ工事も始まってきているため。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	防波堤や防潮堤等の工事も始まりだしていますので、一歩ずつ進み始めているように感じます。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	海岸で仕事をしているので、また津波が来たらどこに逃げた方がいいのかわからない。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	計画は進んでいるようだが、被災地域の状況は全く変わっていない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	バイパス工事等、建設関係の動きが目立っている。安全対策の一環としての価値はあるものの、防潮堤の補強工事は現在進行中である。一番不安なのは学校の高台移転へのスピード感が薄いことである。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	被災に遭った避難場所があるが、新しい避難場所の整備がまだされていない。マップも作成されていないようだ。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	コンクリート不足で工事が遅れていると聞いた。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	津波の際の避難道路や掲示板が増えたと思う。ただ、前回並みもしくはそれ以上の津波が来た際の避難場所については多少不安を感じる。ただ、避難場所の指定を受けた施設にソーラーパネルが設置されたのは評価できると思う。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	計画は具体的に示されるようになってきたが、目に見えてこない（形として）進み具合として判断しにくい。
教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	道路の舗装等が行われ、歩きやすくなった。	
あまり達成していない	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	防潮堤の修繕作業、高台移転の土地整備、復興住宅の着工等、進んでいるのが見えてきていますが、進捗状況等の周知が足りずわからない部分が多い状況です。今、同じ規模の津波が来たら不安という声が周囲で多く、避難方策の徹底との同時進行が必要と感じています。
	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	防潮堤がまだ造られていない。そこに住む人も不安でしょうがないと思う。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	防潮堤の整備等、ハード面がこれからである。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	私の周りはまだ堤防も壊れたままです。工事には時間がかかるとは思いますが、それにしても時間がかかりすぎていると不安に感じます。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	意識の変化については感じる。（例えば、防災訓練等の参加率や参加者の声等）、しかし、実際にハード面での整備はまだまだ計画すら立ってない計画段階という程度である。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	壊れた防潮堤が修理されていない様を見ると、進んでいるとは言い難い感想を持ちます。

あまり達成していない	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	1年5ヶ月経過していますが、海岸近くを毎日通って通勤していますが、とても怖いと感じます。以前あった防波堤等、まだまだ全くと言っていい程進んでいないと思います。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	盛り土をして区画整理の話はよく聞くが実際にどうなるのかは分からない。いつになるかは分からなくても明確なビジョンだけでも示してほしい。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	基礎の撤去等の工事はいたる所で見られるが、一番やってほしい防潮堤の整備等が全く進んでいない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	冬に向けて、通学路の街灯整備。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	復興計画がどの程度進んでいるかわからない。防潮堤等の計画はありますが、具体的には全くわからない。災害公営住宅の建設場所等、まだ明確に説明されていない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	先日あった会議の場で参加者の1人から避難先が明確に示されていないという発言があった。海岸付近にある一本松等を見に来ている人達が有事の際にどこに避難すればいいのかわからない状況となっていると指摘していました。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	昨年より検討委員会にて（4回）結論を出して首長に提案（文書）したが、7月の地域の説明会では第2線堤の問題も含め大きく後退した結果となっている。今までの我々の復興検討委員会は何だったのだろうか。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	湾口防波堤は設計変更のため、再シミュレーションが必要でシミュレーション待ちとのこと。消防団の屯所も浸水区域外に建設するとの事のように、奥の方に建設が決まったとのこと。町のはずれの方で津波の警戒や他地域に出動等不便さを伴うようです。消防団の力はまだまだ必要です。もっと安全に活動ができて、出動や警戒、予防活動のしやすい場所に建設できないのか関係者一同心配しているようです。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	防潮堤の各地域の説明会は実施していたが、堤防高の住民の決定については選択肢が少なく問題である。（例：10.9mか12.5mの二択であった事） 現在がれきの分別を行っているが、がれきを使用した防潮堤造りの検討も必要だと思う。特にも不燃物の処理方法が決定されておらず、行き先が不明であること。防潮堤への利用方法も一考する必要があると思う。
地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	一部の漁港周辺はかさ上げ工事が始まっているが、全体的には緒に就いたばかり。まだまだ先のことのようなのである。100年の大計のつもりで防波堤等構造物が造られたが、1000年に一度の大海嘯で巨費を投じた鉄壁の守りの構造物が一瞬にして壊滅した。尊い人命を守るためのボランティア消防団の活動が欠かせないが、そのためにこのたびの大震災で多くの消防団員の命が犠牲になった。これでいいのか。想定外と為政者は言う。想定外という言葉はもう死語。「いまや何でもありき」と思う。災害が発生するまでは、守りのための防災構造物の早期建設は大切であろう。「いざ地震発生！」災害発生の際に確かな予測のもとに、防災に携わる人々が犠牲にならないように生命の安全を保障すること。一般人は直ちに逃げることを。	

あまり達成していない	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	岸壁の工事は進んできましたが、防潮堤の工事は手つかずですので、安心して生活ができません。従って、災害に強い安全な「まちづくり」の推進のため、早急に着工することをお願い致します。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸北部	水門の補修が始まっていた。震災前からコンクリートが落ちていたので次の津波に耐えられるか心配。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	具体的な整備は進んでいない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	まだ形として見えてきていないと感じます。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	具体的な避難場所、避難路等の提示もなく具体化は進んでいない。防潮堤も現在は復旧工事が始まったが、速度が遅く海の荒れる秋、冬の漁期に不安を感じる。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	湾口防波堤の整備が住民の安全、安心を確保する上で最も急がれるが、未だ本格着工に至っていない。中心市街地形成に向けた土地区画整理事業計画の具体的な計画が出ていない。そのため避難道路も計画が示されていない。早急に計画を示して欲しいとの住民の声が高まっている。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	いろいろな構想は出ているが、具体化はこれからである。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	土地の活用等についての具体的な動きは鈍いが、役場仮庁舎がオープンし、役場機能が正常化に近づいたことは前進だと思う。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	岸壁のかさ上げ工事がコンクリート不足のせいか先に進まない。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	生活に欠かせない生活道路は震災時のままほとんど手がつけられていない。防災計画は策定されているようだが、どの程度進んでいるかその状況がわからない。また、津波が襲ってくるようなことがあれば、ただ高台に逃げればいいのか。介護弱者を収容する施設にしても、地域全体としてどう連携すればいいのか、このままただじっとしておれというのか。方向性が示されないため不安である。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	まだまだこれからだろうが、ここに至ってやはり災害を回避するまちづくりから利便性や震災前への回帰を望む声があがっていることが残念でもある。大津波の経験が生かされず、また同じ場所で営業する商店、津波で被害を受けた場所に建てようとする公共建築物、あまりに早すぎる「のどもと過ぎれば・・・」の感覚に危惧を感じる。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	災害に強い町づくりビジョンがより明確に住民に知らしめる必要があると思います。まず、最優先は何か。避難経路の確保なのか、防潮堤かさ上げによる対策なのか。大津波が50年後に来襲すると考え対策するのか、明日来るものとして対策するのかで大きく異なると思います。ちなみに、我らの職場では明日大津波が来るものとして対策を考えています。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	防潮堤の修理が進んでいないため。
教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	町の中ががらんとしている。被災した場所はどうなるのか、通るたびにそう思います。地震があるたびに「津波くる？」と聞く子どもに本当に「大丈夫だよ」と言える安全なまちづくりをお願いしたい。	

あまり達成していない	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	地域によってガードレールの整備、道路の整備がなされていない。津波、火災が起きた時のままでガードレールは焼け落ち、道路は抉り取られ、穴が開き、デコボコの状態である。住宅地の近くで車もバスもよく通る道路である。
	教育・福祉施設関連	60歳代	沿岸北部	がれきも少なくなり、流された駅周辺を整備している。道路も被災前とほとんど同じレベルに回復してきている。
達成していない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	防潮堤が全くなおっていない。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	防潮堤の整備は全く進んでいません。壊れたままです。波が高いときには恐い感じがします。防潮堤のところががれきがあり、その処分を先に行っています。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	海上ではよく作業をしている所を見るようになりました。他地域に比べ回復が早かったと思いますが、まちづくりに関してはお世辞にも進んでいるとは言えなかったです。ただ、今年に入り、海上の船の動きをよく目にするようになり、内容は分かりませんが、以前と比べると前に進み始めたのかなと思います。まだまだですが、少しずつ将来また来るであろう災害に向けた対策を進めてほしいと思います。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	行政の方針も具体的でなく、被災者の生活が置き去りにされていると感じる。若い人には時間があるので高齢者の方にとっては一日も早い安定した生活がしたいと思っている。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	今日、未曾有の大災害がまた起きたら3.11以上の災害になると思う。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	壊れた防潮堤は手つかずそのままの状態にある。もう一度津波が来たらと思うと、そのままの状態にしてあることがとても恐ろしい。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	大震災の検証を行っていない。あの時、何が必要で何が足りなかったのか、そして今後、どのように対応できるか、対応しなければならないのか。県も自治体も検証を行っていないし、公表していない。現在、仮設住宅に住んでいるが、自治体の避難所すら決まっていない。シミュレーションの説明はあったが、今回の震災により、人間の知を超えざる災害があったにもかかわらず、人工物による減災を考えている。経験を生かすのが人間だと思う。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤はすぐできるものはないとわかっているが作業の進み具合が遅いのではないかと思います。仮設店舗（人が集まる場所）も津波の被害のあった場所に増えてきているので不安である。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	進んでいない。がれきを片付け、仮設を建てて、それから進んでいない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	何も変わらない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	防波堤等の修復工事が始まっている所もあるが、全体としてはまだまだである。最近、またやや強い地震が度々起きているので、また津波が来ると防波堤のなさが怖い思いである。住居もかさ上げをして住居を建てる所など何ひとつ進んでいない感じがする。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	町づくりは全然進んでいない。まだ仮設住まいで家も建てられない状態です。町づくりも全く進まず手つかずの状態です。県、国の動きが進まない。復興庁の動きもないまま進歩がないです。

達成していない	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	水門を含め復旧は遅れている。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	R45号が開通しているが、一部の区間になんら避難方策等が講じられていないように感じる。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	津波により破壊された防潮堤のがれきは撤去されたが、復旧工事は未だ始まってはいない。防潮堤のかさ上げ工事や水門等の復旧工事も動きが見られない。津波避難路や避難所の工事目にする事がありません。全く手つかず状態です。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	がれき等は減ったが、防災に強いまちづくりは計画、調査段階で形としては見えていない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	復興計画の説明会は開催されましたが、現地の調査、測量等もこれからで、高台移転、第二堤防、被災地の買取等、具体的な話がない。仮設住宅からいつ出て行けるかが見当がつかず、不安を感じる。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	二度三度紙面図上での復興ロードマップは住民に提示されていますが、その都度、復興のパターンが二転三転し、住民からは「不安、不信」が募っている感があり、まずは津波によって破壊された防波堤の修繕をし、その後に新しい防波防潮堤を構築すべきと思います。がれきの山で破壊された防波堤部分は陰に隠れています。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	防潮堤は必要と思います。防潮堤があったから今回は時間を稼げたと思います。なかったらどうでしょう。夜だったらどうでしょう。私は一番大切な事はどのように今後伝えていくかにあるのではないかと、家庭でしょうか、学校でしょうか、国でしょうか、最後は自分にしかありません。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	行政から示された堤防の増設、かさ上げなどの計画が具体化せず居住地選択の支障にもなっている。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	防潮堤が壊されたままなので海が見える状態であり不安である。早期の工事着工を望む。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤は手つかず。水門くらいは早急に修理すべき。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	水門が壊れたままで機能していない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤は仮土のうのままであること、がれきは随分なくなりましたが、漁港、堤防、川、道路等、まだまだ壊れたままで昼は明るいので先が見えるからわかるけど、夜、周りが分からない所だと壊れたままなので危ないと思う。国道と大きな漁港は十分くらい良くなったと思うが、防潮堤がどこも壊れたままなので、津波等、注意報でもすぐに閉鎖できる体制やそれを利用する利用者に周知させることが必要だと思う。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	都市計画が発表にならないため、皆さんが前に進んで復興できないでいる。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	防波堤の整備計画など計画段階であり、進んでいない。現状の海が見える景色では災害に強いとは言えない。復興計画の策定など他の地公体に比べ進んでいるとの認識があり期待している。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	防潮堤等、先に進んでいない。復旧していない。外灯等が少なくなっている

達成していない	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	防潮堤を始め、多様な防災関係の建造物がない。もし、このような状態で津波がまた発生したらどうなるのかという心配がある。行政側ではもうしばらく大地震（津波）の発生がないと楽観視しているように感じられる。仮設住宅等に避難生活している人は安全な地域だが、浸水地域で住宅を修繕し住んでいる人々は不安を抱えている。早急な対策を進めてほしい。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	防潮堤の整備はまだ進んでおりませんが。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	未だがれき処理に追われ、復興のステップまで進んでいない。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	防潮堤に何十億かけるより、山を切り崩し、平地を作り、早く安全な地域作りを希望します。浸水地域に戻る人々を止めてほしい。浸水した家を改修して住んでいる人も本当は不安な気持ちで生活している。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	防潮堤の建設がまだ見受けられない。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	今の状況では防波堤も壊れて、そのままなので整備は進んでいないと思います。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	何も進んでいるようには思えない。遅い。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	災害避難路等の（幹線路）計画、青写真等が示されておらず河川の側道、護岸、流路工等の土砂災害対策等も震災前から相変わらず計画がストップしているままであるので高台の安全性においても低いままである。河川流域の復旧もまちづくり計画とセットで県、自治体連携して計画を住民の目に見える形で示してほしい。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	達成はしていないが、基本計画等が自治体から提示されている。確実に達成されるようにがんばってほしい。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	防波堤が完成していないから。高台への避難路が完成していないから。盛り土をして今回被災したところが（同規模の津波が来た場合）被害が少なくなるようにしようとしているようですが、盛り土をした分、津波は今回よりさらに奥の湾へ、川の上流へ、高台へ行くようになり、新たな被災地を作ることになるのではないのでしょうか。（盛り土をせず、今回被災した場所には家を建てない方がよいと思っています。（公園、工場等は可））
教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	壊れた堤防、岸壁は当時そのままに残されている状態です。盛り土も未だ手つかず、満潮時は冠水する地区もそのまま。現在、私の住まい（仮設）も海から多少離れてはいても、3.11のような規模の津波が再度来ればおそらく水に浸かると思われる平地にあります。少しでも早く安全な高台に移りたい思いです。	
教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	防波堤が修復されていない。私は避難所となる学校に勤務しているが、あれ程大変な状況だったにもかかわらず、毛布一枚残っていない。災害時のことを想定しての定期的な意見交流会や具体的な打合わせをしたいのにその機会がない。もし、同じような状況になると、ゼロからのスタートになってしまうのではないかと不安である。	

達成していない	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	道路の復旧は、今盛んに行われているが、まだ回復途上。防波堤の工事は手つかずであり、進んでいるとはとても思えない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	津波で壊れた道路や橋等の修復を行っているので、まだ災害に強いまちづくりは進んでいない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	防潮堤は整備されていない。県には様々な復興についての取組がなされ、とてもがんばっていると思う。しかし、我々被災地から見ると、中央の政争に巻き込まれているような気がする。知事には「復興第一」として事にあたってもらいたい。もっと復興に対する事業をアピールしてもいい。今年になって何か覇気というリーダーシップというか、そういったものが感じられない。ぜひがんばってもらいたい。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	がれきは山のように積まれたまま。防波堤はまだない。雨が降ると海面が上がり、道路まで水が溢れる場所がある。被災地域で買い物等をしている時に、また大地震があったらどの経路で逃げようか決めていない人が多いのではないかと。誰からも分かるように避難路を整備すべきである。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	防潮堤の整備は進んでいない。「住民の安全」を考えるためには、一日でも早い高台の整備が必要だと思う。災害に対する心構えは以前に増してできていると思うが、時が経つと人の意識も薄らいでしまう。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	テレビで高潮注意報を見るたび、どうにかならないのかと暗い気持ちになる。被災した土地に震災直後よりアパートが建ち、人が住んでいる。誰が許可して誰が建てたものかわからないが不安になる。高いところに残っている家も次に大きな津波が来たら間違いなく流されてしまうと思うと不安になる。
分からない	地域団体・郵便局関連	10歳代	沿岸南部	ようやく測量が始まった段階で、進捗状況もまだ目に見えていないので判らないとしました。

【自由意見掲載上の注意】

- ①記載内容については表現も含めて原則として原文のまま掲載しています。
(誤字、脱字は修正をしています。また、企業団体、個人等の名称は置き換えています。)
- ②自由記載については、本人の掲載の了解を取ったものだけを掲載しています。